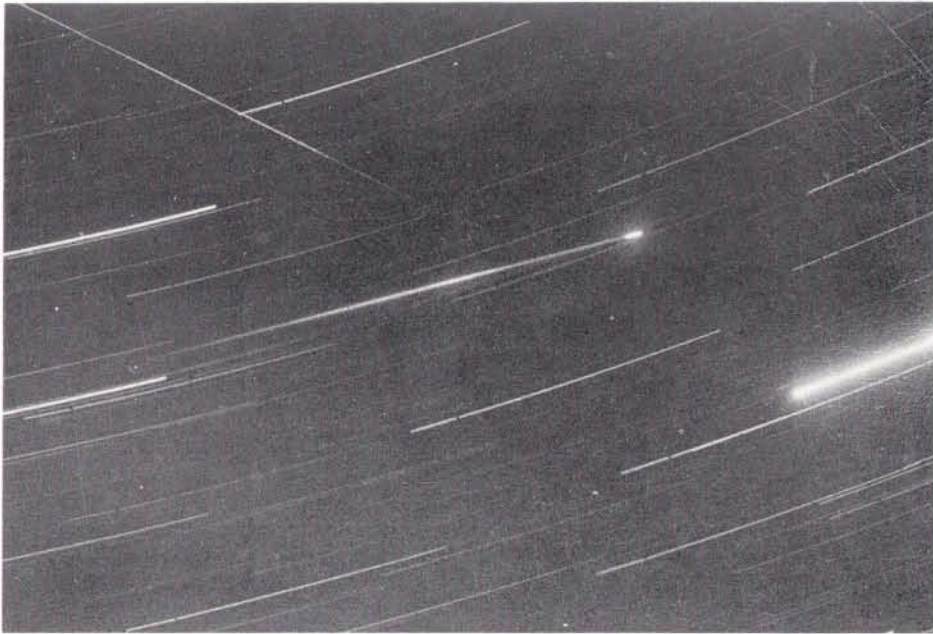


獅子座流星群の一流星の直接と分光写真

1965年11月17日3時30分出現した流星で消滅点付近で急に光度を増している。
直接写真は 口径 1.7 cm F 3.5 トプコールレンズと SSS フィルムの組合せ、明るい星は木星。

分光写真は 口径 5.7 cm F 3.5 ニッコールレンズに 300 本/mm の透過グレーティングをつけ、TriX フィルムとの組合せ、回転シャッターは1秒間に 10 回切断している。
スペクトルは下の部分が一次、上の部分が二次スペクトル。

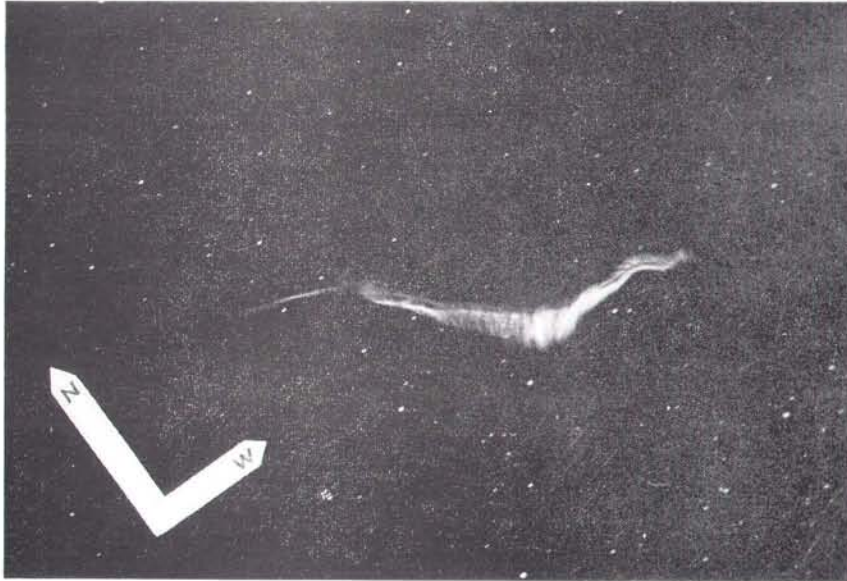


H
K Ca 第2次

Si
Na
Mg 第1次スペクトル

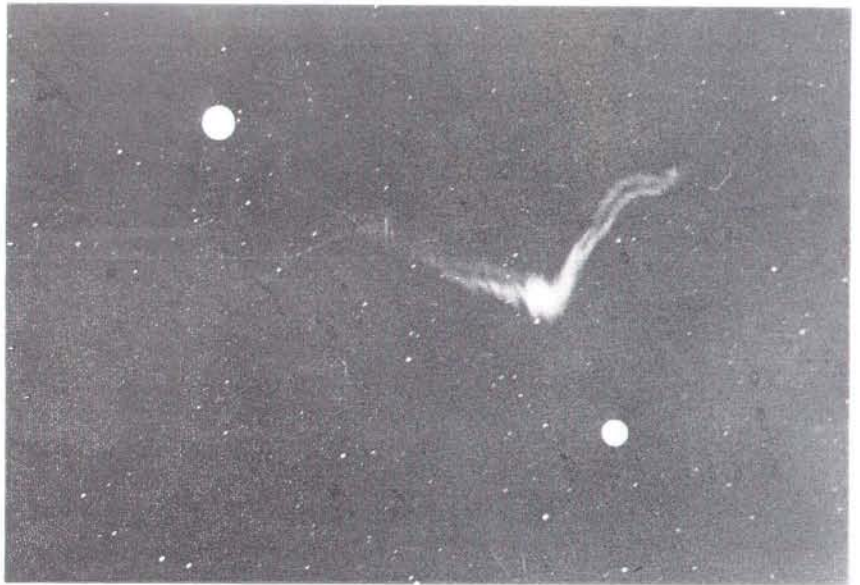
H
K Ca

獅子座流星群の流星痕



1965年11月17日午前1時47分46秒、牡羊座とくじら座の間を流れた約マイナス7等級の流星の痕。流れた瞬間の痕の色は緑色で、痕は約10分間残っていた。この4枚の写真は広島大学で村上忠敬氏の指導で横田隆則氏が撮影したものである。カメラはニコンF、 $f=35\text{mm}$ 、絞り2.8、KONIPAN SS使用。

① 約30秒後（露出 $1^{\text{h}}48^{\text{m}}15^{\text{s}} \sim 48^{\text{m}}55^{\text{s}}$ ）



② 約1分40秒後（露出 $1^{\text{h}}49^{\text{m}}30^{\text{s}} \sim 50^{\text{m}}0^{\text{s}}$ ）上下の白い円点は現像ムラ。



③ 約2分40秒後
(露出 $1^{\text{h}}50^{\text{m}}30^{\text{s}} \sim 51^{\text{m}}30^{\text{s}}$)



④ 約4分10秒後
(露出 $1^{\text{h}}52^{\text{m}}0^{\text{s}} \sim 53^{\text{m}}0^{\text{s}}$) 白い縦線はネガのキズ。